

## 献辞

故樋口一清先生と最初にお会いしたのは、霞が関の職場においてでした。当時、先生は通商産業省から経済企画庁へご出向され、筆頭局の総括課長補佐として経済見通しをはじめとするマクロ経済政策の取りまとめを担当されていました。

私は、直属の部下としてお仕えし、それ以来、公私にわたって常に温かいご指導を賜ってまいりました。

最後にご一緒にお仕事をさせていただいたのは、ご逝去されるわずか2か月前に発刊となった「日本の消費者政策」の編集作業でした。頻りに連絡を取り合う中で、先生は本学会の今後の進め方や、先生のご尽力のもとで次々と創設が進んでいた大学院レベルでの専門人材教育の更なる充実について、常に熱く語られていました。まさかこの機会が、先生からのご指導や薫陶を直接受けることができる最後になってしまうとは、当時の先生の元気なご様子からは露程も想像がつかないことでした。皆様と同様、突然の訃報に接し、深い悲しみとともに、今後はあの周囲の皆をすべて包み込むような穏やかで温かい先生とお話することも、そしてご薫陶を受けることもできないことを思うと、無念で一杯です。

先生は、東京大学経済学部をご卒業後、昭和50年に通商産業省に入省され、通商調査室長、鈷害課長、消費経済課長、小規模企業政策課長等を経て、九州経済産業局長でご退官されるまで、経済産業政策、環境政策、消費者政策といった幅広い分野で行政手腕を発揮されました。その後、アカデミアの世界に転じ、信州大学の経済学部及び大学院で教授として教鞭を執られ、評議員やイノベーション研究・支援センター長などのご要職も兼ねられました。信州大学

名誉教授になられた後も、法政大学大学院や昭和女子大学大学院において、教授としてご活躍されました。またその間、中央大学、成城大学、明治大学大学院、広島大学大学院などで講師も務められ、多数の大学において長きにわたり後進の指導や研究に大いに貢献されました。

社会経済活動の分野におかれては、長野県の初代消費生活審議会会長や行政機構審議会会長などに任せられるとともに、内閣府の消費者委員会委員をはじめ、各府省の審議会委員としてご活躍されました。また、NPO活動にも積極的に参画され、ながの消費者支援ネットワーク理事長や消費者スマイル基金副理事長など、消費者団体をはじめとする各種団体でも、役員として幅広くご活躍されました。消費者庁及び消費者委員会の創設に際しては、国会からの要請に応じ、参議院消費者問題特別委員会において、「消費者庁関連3法案」に関する参考人としてご出席されました。

平成30年5月には、先生は、これまでの長年にわたる消費者政策への多大な貢献から、官邸において消費者支援功労者として内閣総理大臣表彰を受けられました。

先生は、環境政策や消費政策をはじめとする多数の論文や専門書を表されていますが、近年では、消費者政策の分野に傾注され、特に「新しい消費経済学」の確立と普及に注力されておりました。すなわち、サステナビリティ、情報の非対称性、限定合理性の3つの概念を柱に据える「新しい消費経済学」を、消費者政策の理論的基盤として位置付けることを提唱されておりました。

長年にわたる実務、教育、研究への先生の真摯なご貢献とその成果は、本学会の初代会長を務められた先生の御遺志を引き継ぐべき私た

ちにとっての大きな財産であり、また進むべき道を示していただいている航海図でもあります。そこで、このような貴重な知的財産を残していただいた先生に対する敬意と深い感謝の気持ち表すため、故樋口一清先生追悼号を刊行することにいたしました。

先生の御冥福、そしてご遺族の方々のご健勝と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

日本消費者政策学会副会長  
井内 正敏